

(X)

「九州派」五号で、この大集会を予告して「九州へ遊覧ください」と、書いたのを、そのまま信じて来た遊覧の男、田中がいた。そしてまた九州派の中にも、ただの観客で過ごした者が四人いた。いつも、求めて求められないイラダチでもなく、また物珍しさからでもない。いやそれより貴重な時間と、それより要る金の重さを押し切って、それ以下の形而下の軽率さに組みした彼等の先天的、非芸術さは、またなんという珍しい存在であることか。いふなれば事件愛好者なのかも知れない。証拠は色々とあげられよう。だがしかし、目撃者のみが知る「むなしさ」「一回性」「瞬間の意味」一に立ち会う肝がまえ、証人になる覚悟、まさに行為者以上に可能性を含んだ白いキャンパスに似た、非行為のエネルギーを感じた。こんな行動至上主義的英雄たちの集会で非行動主義的観客がいたことのキビシサこそ、笑って、軽く、そして、ごく軽く「アソ!」ということ以外に、彼等に捧げる最上の賛辞はなかろう。これも、大いなる収穫と呼ぶに適わしい現象であろうか。